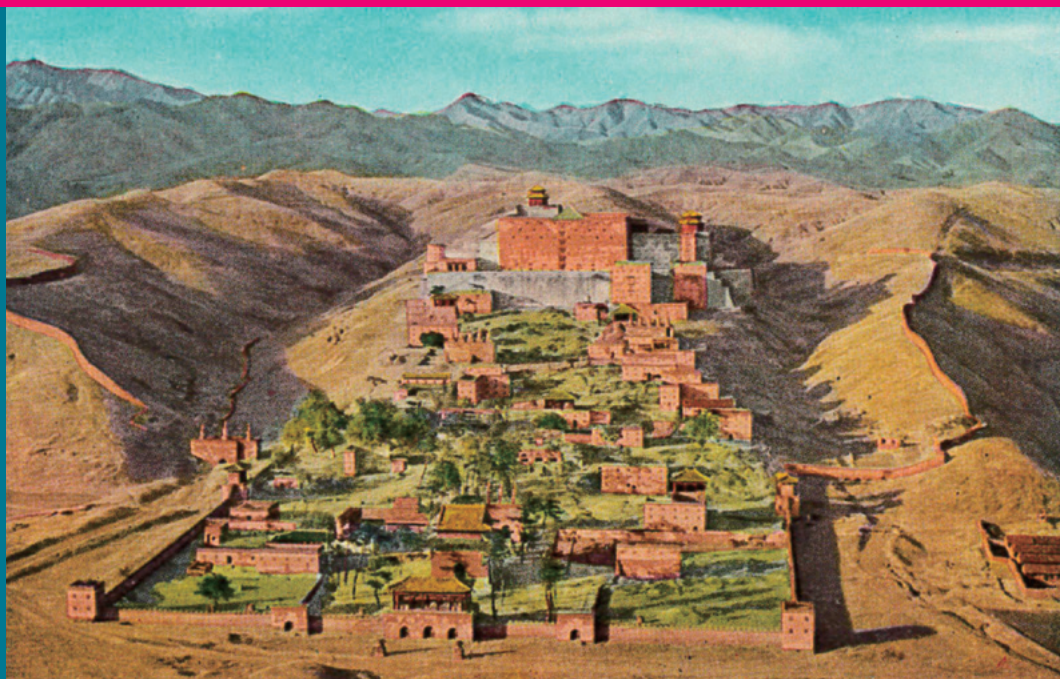


「大東亜共栄圏」構想のもと、日本仏教が模索した中国、アジア諸地域、
欧米との連携——その軌跡を伝える貴重資料の数々を集成！



普陀宗乘之廟全景（中国河北省）

一九三三年三月、国際連盟を脱退した日本は、やがて出口の見えない戦争へと突き進んでいった——。国際的に孤立した状況にあつて、日本の仏教者は欧米の研究者らと連携、アジア諸国の仏教勢力との協力を目指した。国策に順応し多岐にわたり空前の規模で展開された、これらの事業が遺した意義は大きい。これまでに以上に国際交流のあり方が問われるいま、戦時下の日本仏教の遺産を検証することが求められている。本資料集は、そのために必要不可欠な文献資料を収録するものである。

資料集

○ 龍谷大学アジア仏教文化研究叢書

戦時下「日本仏教」の 国際交流

全Ⅴ期・全10巻

〔編集復刻版〕

○ 編者——龍谷大学アジア仏教文化研究センター「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

（中西直樹（代表）・林行夫・吉永進一・大澤広嗣）

○ 推薦——赤松徹眞（本願寺史料研究所長）・

楠淳證（龍谷大学アジア仏教文化研究センター・センター長）

第Ⅴ期 チベット仏教との連携 全1巻

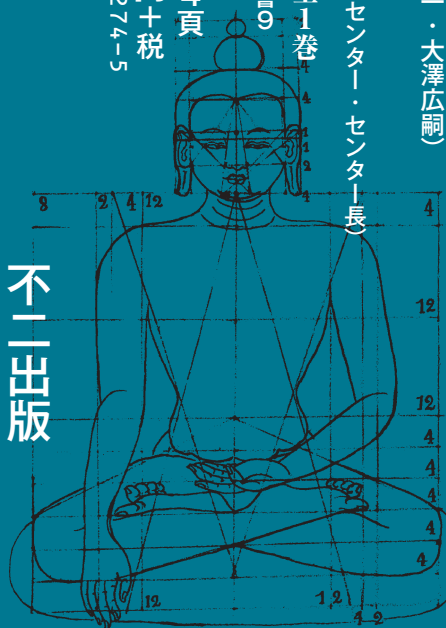
龍谷大学アジア仏教文化研究叢書9

○ 体裁——B5判・上製・324頁

○ 定価——本体24,000円＋税

ISBN 978-4-8350-8274-5

○ 二〇一九年二月刊行



不二出版

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』推薦文

赤松徹眞（龍谷大学前学長・本願寺史料研究所所長）

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』は、第Ⅰ期に汎太平洋仏教青年会大会関係資料（全二巻）、第Ⅱ期に南方仏教圏との交流（全三巻）、第Ⅲ期に中国仏教との提携（全二巻）、第Ⅳ期に全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』（全二巻）、第Ⅴ期にチベット仏教との連携（全二巻）を刊行する計画で、編集代表は龍谷大学文学部教授の中西直樹氏である。

さて、第Ⅰ期刊行の資料は、戦前に仏教者が開催した国際大会である汎太平洋仏教青年会大会の記録を中心に編集されている。この大会は、第一回大会が一九三〇（昭和五）年にハワイで、第二回大会が一九三四（昭和九）年に東京で開催された。戦前の国際大会として大規模なものであり、その実態を検証していくことは、民間レベルの国際交流のあり方を問い、日本仏教の国際化を考える上でも意義深いと言えよう。

第Ⅱ期収録の『海外仏教事情』は、一九三四（昭和九）年八月に国際仏教協会から創刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立に際して」、高楠順次郎の『海外仏教事情』に就いて」などが掲載されている。雑誌の名が示す通り、世界各地の仏教事情、ことに東南アジア各地についての特集記事が生まれ、日本仏教の活動のみならず、当時の現地宗教事情を知る上でも貴重な資料である。他にも『南方仏教青年会会報』などが収録されている。

第Ⅲ期収録の『国際仏教通報』は、一九三五（昭和一〇）年四月に国際仏教通報局から創刊された。全日本仏教青年会連盟の一セクションである国際仏教通報局の機関誌であり、世界各国の仏教者・仏教研究機関との情報交換を記した貴重な資料である。このほか第Ⅲ期には、中国仏教との交流を知る上で欠かせない『日華仏教』『支那宗教事情』『東亜宗教事情』も収録されている。

第Ⅳ期収録の『青年仏徒』は、全日本仏教青年会連盟の機関誌であり、一九三六（昭和一一）年七月に第一巻第一号が発刊され、一九四三（昭和一八）年発行の第八巻第二号まで刊行されたことが確認できる。戦時下で、各宗派の仏教青年会が大同団結し、国際交流にも尽くした情報を知る上で欠かせない資料である。

第Ⅴ期には、当時「喇嘛教」と呼ばれたチベット仏教との連携に関する資料を収録した。満州事変を契機として、真言宗・真宗大谷派・浄土宗・日蓮宗などにより、チベット仏教との連携を図る動きが加速した。チベット僧侶の日本留学・養成事業などの実態を知る上で重要な資料が収録されている。

本資料集は、十五年戦争下で日本が「大東亜共栄圏」を構想するなか、日本仏教がアジア各地の仏教とのネットワーク構築・形成を模索した軌跡を余すことなく伝えるものである。二一世紀の現在、ヒト・モノ・カネが国境を越えて錯綜するグローバル化社会に直面して、キリスト教文化を背景としたグローバルスタンダードへの適応が求められている。多様性や包摂性が失われる危惧が指摘されている。平和な世界形成に仏教の果たすべき役割が大きくなっていく状況で、その意義を問う上でも本資料集は価値あるものと考えられる。

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 刊行の辞

楠 淳澄（龍谷大学アジア仏教文化研究センター センター長）

龍谷大学は、寛永十六年（一六三九）に西本願寺の阿弥陀堂北側に創設された「学寮」を淵源とする大学です。その後、明治維新を迎えると学制の改革が行われ、学寮も大教校と名を変え、さらに真宗学座、大学林、仏教専門学校、仏教大学と名称を変更し、大正十一年（一九二二）に今の「龍谷大学」となりました。

その間、三百八十年の長きにわたって仏教の研鑽が進められ、龍谷大学は高い評価を得てまいりました。そして平成二十七年四月、本学の有する最新の研究成果を国内外に発信するとともに仏教研究の国際交流の拠点となるべき新たな機関として、本学に「世界仏教文化研究センター」が設立されました。アジア仏教文化研究センターは、そのような意図のもと設立された世界仏教文化研究センターの傘下にある研究機関です。

世界仏教文化研究センターが設立されるにあたって、その傘下にあるアジア仏教文化研究センターは、文科省の推進する「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、「日本仏教の通時的・共時的研究―多文化共生社会における課題と展望―」と題する研究プロジェクト（平成二十七年度～平成三十一年度）を申請し、採択されました。

本研究プロジェクトは、龍谷大学が三百八十年にわたって研鑽し続けてきた日本仏教の成果を踏まえ、これをさらに推進し、日本仏教を世界的視野から通時的共時的にとらえるとともに、日本仏教が直面する諸課題を多文化共生の文脈で学際的に追究し、今後の日本仏教の持つ意義を展望するものです。このような研究のあり方を有機的に進めるため、本研究プロジェクトでは通時的研究グループ（ユニットA「日本仏教の形成と展開」、ユニットB「近代日本仏教と国際社会」）と共時的研究グループ（ユニットA「現代日本仏教の社会性・公益性」、ユニットB「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」）の二つに分け、基礎研究等に基づく書籍の刊行や講演会等による研究成果の公開などの諸事業を推進してまいりました。

このたび刊行される『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』第Ⅴ期「チベット仏教との連携」は、右のような研究プロジェクトの成果の一つであり、第Ⅳ期「全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』」に次ぐ「龍谷大学アジア仏教文化研究叢書」の第九号となります。今後とも、世界仏教文化研究センターの傘下にあるアジア仏教文化研究センターが、日本仏教をテーマとして国内外に発信する諸成果に、ご期待いただければ幸いです。

小林義道著

受取り
して、今
ラマ書
果から

講師 大野 俊 寛

難し。自然下の理を表現することゝ源流としての自心であり、五智自然なるもの。此の五智無明智をて無明に捨捨するが爲めである。故に我々は已に心の源流に佛々内なるものである。我々が成佛するといふことは、自身を佛智することであり、佛智が生ずるに生ずるといふことで、この自心の源流に理具して生ずるといふことである。佛智すればば、無分別智に於て別別思想の俗智を脱して自心の源流に覺知し、無分別智に於て作つて佛としての自心の五智無明智をて無明に捨捨するといふことである。我々が斯く無分別智に成佛するといふことは、主観意識の觀世界に決着することなく、かゝる主観ある大我とは自他對立の世界をて斯なる自我である。自他一切を超越する別相がそれである。自心の源がそれ心の源流として對家體に覺知された此ではなく、自心の源流の對家體、機言よつたものとの對照となつたものなく、そのものとしての自心の源流なく、くも別別の所なるものでなく、最早一切となつたならぬ。將照あるが故になつて對立して別に對照あるが故になつて對照する。他を分別して自己

蒙古王公會議を點晴すべき日蒙信交運動

日蓮宗蒙古特命開教使 高鍋 日統

予が今同、長春に於ける蒙古王公會議の機會を
開闢利用して、來り會せる王公貴族等に教話せる
要綱は乃ち次の如くである。

(一)

立正安國論の啓示する

救蒙の三大精神

(1) 宇宙大生命の本尊を信奉すべし

蒙古の現状を生めるラマ教の根本的

(3) 道義的民族の膨脹を期成すべし

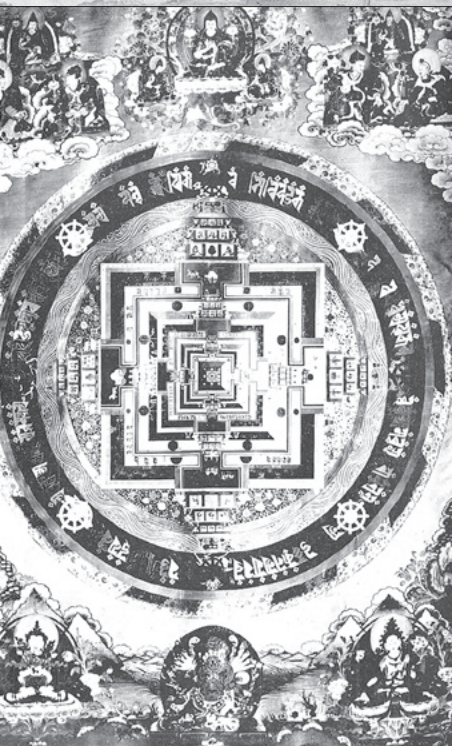
大社の啓示せる日蒙青年提携の急要

二、

與中華全體佛教徒之宣言

成爲親善的中華全佛教徒諸士呀！

現在的世界的勢情，釋尊從先傳給諸記預言，正當五百年後，末葉等，這三世中於那一個時代有相當？，非在正像二法時代，則是末法濁世之中也，真理的正法失去光芒，如實理之道，完然發顯，醜惡陷世之心，旺盛，世人薄俗，共許不急之事，於此劇惡，極苦之中，以自給濟，共憂錢財，憂念愁怖，戰火盜賊，焚漂劫奪，消散磨滅，憂念忪忪，無有解時，結憤心中，無有和平親善心，我等佛教徒的信佛、聽法、修善薩行，如現代之佛道行，非爲所行，故遭遇涕淚悲泣的痛感嗎？日華時變已經到了二載，我等幾千以來，同貴國隣善友誼，此間東亞的和平將破壞，此即是修羅的出現實相，日華相睦的起原，因由何起的？嘿！但是國民政府、隣善的永遠和平的基礎，共存共同的發達



□田中清純は中日密教研究会によって「宗教による日支親善」を目指した。
上、昭和7年、日本公使館にて。
下、「時輪金剛壇城」。どちらも田中清純編『依宗教日支親善』より。

□真言宗

『依宗教日支親善』（田中清純編・発行、昭和8年）
『王揖唐先生歡迎之辭』（中日密教研究会静岡支部、昭和9年）
『日本の密教』（中村教信編、真言宗宗務所興亜部、昭和16年）
『日本喇嘛研究本部概説』（日本喇嘛研究本部編、松寿庵布教所、昭和18年）
『興亜密教』1号（高野山興亜密教学院、昭和19年3月）

『日蒙藏全仏教徒提携親善宣言書』『日華全体仏教徒 提携親善書』
(寺本婉雅著訳、京都仏教青年会学生連盟事務所、昭和14年)

『入蒙行脚記』（小林義道、華頂文社、昭和14年）

『蒙古王公巡教記』（高鍋日統、統一社、昭和4年）

『大陸國策と仏教工作私見』（西岡大元、滿洲靈廟奉讃会大阪支部、昭和14年）

戦前期仏教社会事業資料集成

【編集復刻版】

全13巻

日本の社会事業において、仏教教団が果たした役割は今日では想像すらできないほどだった。戦前期の教団、各宗派、寺院、仏教者有志による社会事業の全貌を明らかにすべく、本資料集成では宗派ごとにその動向を伝える刊行物を整理、さらに各編に問題を附した。仏教史研究はもとより、広く社会福祉、社会政策、近現代史研究に資する貴重資料の数々！

- 編・解題——中西直樹・高石史人・菊池正治
- 体裁——A5判・上製・総約7,500頁
- 推薦——長谷川匡俊
室田保夫
- 揃定価——本体334,000円＋税

第1回配本 全6巻

収録内容

- 第1・2巻「各宗派共同編」(解題・中西直樹)
『佛教徒社会事業大観』(佛教徒社会事業研究会編、大正9年)、『日本佛教社会事業の概況』(昭和9年)ほか
- 第3・6巻「浄土真宗本願寺派編」(解題・高石史人)
『本派本願寺社会事業便覧』(抄)(大正11年)、『寺院と「セツトルメント」』(藤音得忍編、昭和4年)ほか

- 揃定価——本体150,000円＋税
ISBN 978-4-8350-7015-5
- 刊行——2011年9月

第2回配本 全4巻

収録内容

- 第7・8巻「真宗大谷派編」(解題・菊池正治)
『関東大震災と東本願寺』(抄)(昭和5年)、『方面委員制度と宗教家』(高濱哲雄編、昭和8年)ほか
- 第9・10巻「浄土宗編」(解題・中西直樹)
『浄土宗社会事業要覧』(鈴木積善編、大正12年)、『農繁期託児所経営法』(秦隆真編、昭和12年)ほか

- 揃定価——本体100,000円＋税
ISBN 978-4-8350-7022-3
- 刊行——2012年7月

第3回配本 全3巻

収録内容

- 第11・12巻「諸宗派編」(解題・中西直樹)
『日蓮宗社会事業要覧』(大正15年)、『智山派社会事業要覧』(大正15年)ほか
- 第13巻「別編」(解題・菊池正治)
『学校寺院を原動力とする社会改良』(田子一民、大正9年)、『寺院中心の社会事業』(生江孝之述、昭和4年)ほか
- 揃定価——本体84,000円＋税
ISBN 978-4-8350-7027-8
- 刊行——2012年12月

『明治仏教研究始め』 全1巻

維新から半世紀以上を経た一九三〇年代、自派の権益を重視する宗派主義が強まるなか、友松圓諦らに取り組んだ『明治仏教』総括の成果、雑誌『明治仏教』——昭和9年に創刊、友松はじめ増谷文雄、中井玄道らが筆をふるった通巻28号をほぼ全号収録。さらに仏教関連の新聞雑誌約七五〇紙誌を網羅した『明治年間仏教関係新聞雑誌目録』も附して刊行！ 近代仏教の生成を把握するための必見資料。

- 編・解説——中西直樹
- 底本——『明治仏教』1巻1号～4巻2号
(明治仏教研究会〔明治仏教史編纂所〕、昭和9～12年)

- 体裁——A5判・上製・340頁・総目次／索引附
- 揃定価——本体18,000円＋税
ISBN 978-4-8350-8264-6
- 刊行——2018年10月

雑誌『國教』と九州真宗

【編集復刻版】

全3巻＋別冊1

教育勅語が發布された明治三三年、仏教興隆を目指して「九州仏教団」を組織した新仏教の旗手・中西牛郎らが主筆となり、熊本に登場した雑誌『國教』。教育と宗教、欧化する社会と仏教改革、国粹主義と仏教……。激変する社会のなかで仏教界にとどまらなかった議論の軌跡を、克明に伝える！

- 編・解題——中西直樹
- 底本——『國教』1号～31号
『第二國教』1号～8号明治23～27年刊行
『九州仏教軍』(明治24年)
- 体裁——B5判・上製・総1,274頁・総目次／索引附
- 推薦——赤松徹眞
- 揃定価——本体75,000円＋税
ISBN 978-4-8350-7881-6
- 別冊定価——本体1,000円＋税
ISBN 978-4-8350-7886-1
- 刊行——2016年7月

令知会雑誌

全7巻

仏教雑誌の先駆的存在であるにもかかわらず、原本所蔵が極めて限られていた『令知会雑誌』を完全復刻！ 明治一〇年代後半に最盛期を迎える仏教結社運動のなかでも、島地黙雷、日下痴龍、吉谷覺寿、多田賢住らが牽引した本誌からは、教導職制の廃止など重要な問題の多くを見ることが出来る。

- 監修——中西直樹・近藤俊太郎
- 底本——『令知会雑誌』1号～95号(明治17～25年刊行)
- 体裁——A4判・上製・総約3,030頁
- 推薦——大谷栄一
- 揃定価——本体175,000円＋税
- 第1回配本——全3巻 本体75,000円＋税
ISBN 978-4-8350-8091-8
(2017年6月刊行)
- 第2回配本——全4巻 本体100,000円＋税
ISBN 978-4-8350-8095-6
(2017年11月刊行)



昭和初期の仏教者が開催した大規模な国際大会、汎太平洋仏教青年会大会を中心に編集。第2巻収録の『第二回汎太平洋仏教青年会大会記念』は貴重な写真を多数収録。

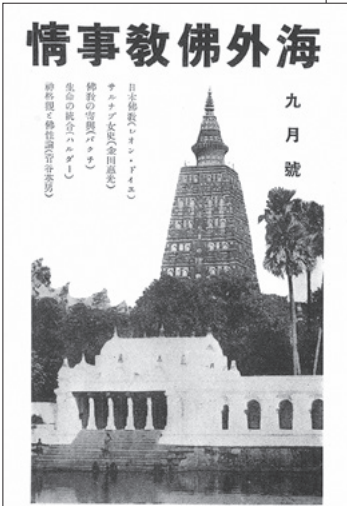


収録の雑誌『海外仏教事情』は、とくにタイ、ビルマ、カンボジアなど、当時のアジア地域の宗教事情を克明に伝える。



第三期は国際仏教通報局の機関誌『国際仏教通報』を軸に、『日華仏教』『支那宗教事情』『東亜宗教事情』といった、中国仏教との交流を記録する貴重な雑誌群を集成。

戦時下の厳しい状況にあって、各宗派の仏教青年会は大団結した。世界に発信する若き仏教者の軌跡。



會長 井上哲次郎

丁度佛敎は本國の支那にびびりつて日本に於いて花を開きやうとした時、佛敎は日本に於いて盛つて來た。それは日本佛敎の根柢に於て日本に於いて居るのである。然し乍ら外来文化が日本に與へる諸祖の形勢をその向上に照らし、他國の本國佛敎の等のものに與つた上で意義を失ふはならない。目今總編輯部中に關したところがあるが、實際觀望の如き日本に於つての、眞にその發展をなし遂げて居るのである。孔孟敎も釋迦の佛敎との點に於いては同じことである。

開化と佛敎の果つたところに於て日本の佛敎の如きは昔無かつた。支那にも五胡胡佛敎を授けた日本に於て佛敎の如きは日本の土に生ずる。更に日本に佛敎の如き以來未だ生じていない佛敎が極めて多かつたのである。かの武田の如きも今は日本佛敎の精神の根柢をへるべき居るけれども、その根柢は元來佛敎の諸殊に關する處にある。今日や日は各國佛敎の下である。この時勢のベルリンである。でも大に大衆佛敎に關する講座を設けようとして居る。その他佛敎にもその種々の望や計畫がある様であるが、何れにしても目下生じなければならない。この時勢大衆佛敎の國の本或は東洋民族更に積極的に之を攝取すること無ないは折角生かされた國國際的觀望の爲の好もきつかれも立くら過ぎたのであらうである。然るに隨國隨佛敎佛敎の語が出たのであるが、それは誠に辯論なことである。日本から佛敎としへ海外に響かされかねない勢である。かかる響かされの結果や顯る大である。相互に文化を交換しようよに依

高神覺昇

[illegible]

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流

【編集復刻版】
全V期・全10巻

●編者——龍谷大学アジア仏教文化研究センター
「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班
(中西直樹(代表)・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣)

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書

●推薦——赤松徹眞・楠 淳證

第V期「チベット仏教との連携」全1巻

第10巻 【収録内容】 龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 9

『依宗教日支親善』(田中清純編・発行、昭和8年)
『王揖唐先生歓迎之辞』(中日密教研究会静岡支部、昭和9年)
『日本の密教』(中村教信編、真言宗事務所興亜部、昭和16年)
『日本喇嘛研究本部概説』(日本喇嘛研究本部編、松寿庵布教所、昭和18年)
『興亜密教』1号(高野山興亜密教学院、昭和19年3月)
『日蒙藏全仏教徒提携親善宣言書』『日華全体仏教徒 提携親善書』
(寺本婉雅著訳、京都仏教青年会学生会連盟事務所、昭和14年)
『入蒙行脚記』(小林義道、華頂文社、昭和14年)
『蒙古王公巡教記』(高鍋日統、統一社、昭和4年)
『蒙古王公説法要綱』(同、大亜細亞民族会、昭和6年)
『大陸国策ト仏教工作私見』(西岡大元、満洲霊廟奉讃会大阪支部、昭和14年)

●体裁——B5判・上製・総324頁

●定価——本体24,000円+税
ISBN 978-4-8350-8274-5

●2019年2月刊行

十五年戦争という前代未聞の時代状況において、日本仏教はアジア諸地域の仏教とのさまざまなネットワークを模索した。「汎太平洋」「南方」「中国」……東アジア諸国の仏教者との連携のなかで共生を目指した日本仏教の苦闘と達成を伝える貴重資料の数々を、ついに復刻。



『依宗教日支親善』
(第10巻収録)表紙。

●第I期 汎太平洋仏教青年会大会関係資料 全2巻

第1巻 『第一回汎太平洋仏教青年大会並会議紀要』
(汎太平洋仏教青年会連盟、昭和6年)
『兄弟』2巻2号(北米仏教青年会連盟ほか、昭和9年)
第2巻 『第二回汎太平洋仏教青年大会紀要』(全日本仏教青年会連盟、昭和10年)
『第二回汎太平洋仏教青年大会記念』(写真帖)
(同編、仏教写真通信社、昭和9年)
『現代仏教批判』[抄録](浅野研真著、構成館書房、昭和11年)
『昭和十八年一月 大日本仏教青年会連盟要覧』
(大東亜仏教青年大会準備事務局、昭和18年)

●体 裁——B5判・上製・総1,008頁
●揃 定 価——本体48,000円+税 ISBN 978-4-8350-7857-1
●2016年2月刊行

●第III期 中国仏教との提携 全2巻

第6巻 『国際仏教通報』1巻1号-3巻10号
(国際仏教通報局、昭和10年4月-12年11月)
第7巻 『日華仏教』1巻1、2、5号、2巻1号
(日華仏教会、昭和11年1月-12年1月)
『支那宗教事情』1号-5号(日華仏教研究会、昭和13年12月-14年8月)
『東亜宗教事情』6号-10号(同、昭和14年11月-15年7月)

●体 裁——B5判・上製・総740頁
●揃 定 価——本体46,000円+税 ISBN 978-4-8350-7864-9
●2017年9月刊行

●『論集 戦時下「日本仏教」の国際交流』

(中西直樹ほか編著/A5判/上製/370頁/本体6,800円+税)

2019年11月刊行予定!

※内容等は変更となる場合がございます。

〈主な内容〉第I部「解説編」戦前期における仏教国際大会の変遷(中西直樹)／一九四〇年の五輪・万博と世界仏教学大会(大澤広嗣)／戦時下日中仏教者の国際交流(野世英水)／南方仏教からみる『日本仏教』とその国際化の虚像(林行夫)／大谷光瑞の「満洲国」論から「東亜共栄」論へ(赤松徹眞)

第II部「収録誌総目次」／第III部「補遺資料」(「解説」吉永進一)

第II部「収録誌総目次」／第III部「補遺資料」(「解説」吉永進一)

振替口座
F A E L
替 X L
00000000
00335599
00159988
60081166
02167700
94004
085
4

不二出版

表示価格はすべて税別